

コドモックル1階からこんにちは！ 相談支援係です！

■守村里美 | 相談支援係長

私たちの係は、5名で活動しています。相談支援係は、平成19年のコドモックル誕生と同時に今の体制になり、10年目を迎えました。当時は、色々な電話相談や来所相談も多く、みんなで右往左往していたことが思い起こされます。振り返ると、お子さん達やご家族等からたくさんの勇気や力をもらい、私たちは少しずつ成長できたように思います。胎児診断された妊婦さんや病気や障害をもったお子さんのご家族が少しでも安心できるように、また、住み慣れた土地で望む暮らしができるよう、微力ながらお手伝いできればと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■松野悠早 | 主任保健師

今年の4月に檜山郡江差町から異動してきました。相談支援係の松野悠早です。受付の隣にある地域連携課で働いています。これまでは、小樽や旭川等の病院、看護学校に勤務しておりました。これからは、相談支援係として、病棟や地域の関係機関等と連携を図り、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■松本佳子 | 専門主任

4月より相談支援係に配属となりました松本佳子です。前職場は児童相談所で児童・保護者からの相談対応をしていました。コドモックルは日々、たくさんのお子さんが来ます。一人ひとりとしっかり向



き合い、保護者の方の抱えている困りごとや不安、家庭の背景等を聞き、良いアドバイスができるよう勉強し、経験を積んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

■矢野佳奈恵 | 専門主任

マクドナルドハウスのある場所に、かつての札幌肢体不自由児総合療育センターが建っていた頃より、児童指導員や相談員として、施設入所、通院、入院の医療助成のお手続きのご案内などをしております。事務室の中では何度か机の場所が変わり、現在は地域連携課事務室入口の一番近いところに座っておりますので、お気軽に声をかけてください。

■今西豊 | 専門主任

本入院や親子入院、検査などを目的とした短期入院の手続きや説明を担当しています。また、市町村発達支援センターへの療育技術支援（道立施設専門支援事業）も担当しています。係で唯一の男性職員、奥まったところに机が配置されています。コドモックルの前身である旧札幌肢体不自由児総合療育センターから相談員として引き続き勤務しており、早いもので21年目になりました。もうすぐ定年を迎えますが、よろしくお願いいたします。

実践！摂食嚥下リハビリテーション



生活支援病棟

指導主任看護師 玄野 絵理

私は、平成28年7月に摂食・嚥下障害看護認定看護師となりました。現在は、入院患者様のQOLの向上を目標に活動しております。当該分野では、新生児期～老年期の摂食嚥下障害の疾患の分類（未熟性、解剖学的な構造異常、中枢神経・末梢神経・筋障害、咽頭・食道機能障害、全身状態、精神・心理的問題、その他の問題）において誤嚥、低栄養、食べる楽しみの喪失があるまたは危険性がある場合や、脳血管障害、高次脳機能障害、神経・筋疾患、口腔疾患、唾液分泌異常において同様のリスクがある場合、また口腔ケアに関するご相談をお受けし、問題の査定、看護実践、評価を行っております。

「食べる」ことは単に栄養補給することだけでなく人にとって楽しみや生きがいでもあります。私はより多くの患者様へ食べる楽しみを伝えるために、食べる「口」づくりを大切に考えています。当センターには生後より口を使う経験が少ない方も多くいらっしゃいます。そのような場合でも摂食嚥下障害につながらないような「発達」を考慮したケアが必要となります。私は、子どもの可能性を信じ、また持てる力を最大限に引き出せるように、患者様と相互に成長できるような環境づくりに努めていきたいと思っております。何か気になることがございましたらいつでもご相談ください。

食べる「口」づくりには何があるかな？

毎日行える間接訓練の1つに口腔ケアがあります。

たとえ食べていなくても口腔ケアは重要です。

* 口腔内細菌を制御し誤嚥性肺炎の発症リスクを低減できる

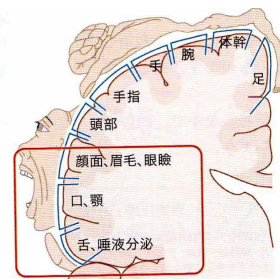
* 唾液の作用を引き出す

* 口腔周囲の筋肉や舌・口唇の廃用症候群の予防となる

* 口腔内刺激は脳の活性化につながる（図）

* 小児にとっては基本的生活習慣の確立となる

* 口腔形態・口腔機能の正常発達への促進となる（感覚過敏・廃用を引き起こさない）



脳の運動野や知覚野の1/3が口腔(嚥下)に関する部分



口腔内刺激は、脳の活性化につながると考えられる！

図 口腔ケアと脳活動

☆口腔ケアの方法や道具の選定などいつでもお気軽にご相談ください

開催しました 夏祭り花火大会

7月21日（金）に、札幌手稲養護学校のグラウンドにおいて、「夏祭り花火大会」がひらかれました。

今年はコードモックル開設10周年という節目であり、リハビリテーション課のスタッフによる「手作り花火ショー」も一段と気合いがはっていました。

今年の見せ場は、幅10メートルに渡る手製のしかけ花火。地面に流れ落ちる花火の光により、清涼感を演出しました。来年はどんな工夫がなされるのでしょうか。今から楽しみです。

